

# イ コ ラ ム イ

シニアアンサンブルのための楽器知識

## 〔16〕ホルン

### ☆ユニークな金管楽器

ホルンはフレンチ・ホルンとも呼ばれています。その形状は他のトランペットやトロンボーン等とは大きく異なり、かたつむりのように渦巻き状になっており、中の方には細かい管が複雑に入り組んでいます。吹き口（マウスピース）もじょうご型で他のそれとは異なっています。長い管はゆるやかな円錐型で朝顔（音の出口）に近くなるほど太くなっています。奏者は左手で4本のロータリーバルブを操作して音程をコントロールし、右手は朝顔の中に差し込んで音色や音律（ピッチ）をコントロールする奏法が用いられます。又、朝顔は奏者の前方ではなく右後方に向けて構えられ、他の金管楽器とは全く相反する格好で演奏されます。移調楽器で、F管の場合、実音は記譜より5度低くなります。

### ☆輝きのある音色よりもやわらかい音色を求めている。

前述のようにホルンはトランペットやトロンボーンと異なる形状をし、独特な構えをとっているのは専らやわらかい音色を求めているからです。管がゆるやかな円錐型であったり、朝顔を奏者の後方に向けるのはそのためで、管が丸いのは朝顔に右手を差し込んでコントロールするためです、ホルンが最も表情力のある金管楽器と言われているのはこれらのためです。

### ☆ホルンの種類

ホルンにはアルプホルンという4mくらいの木製のトランペットでヨーロッパの山岳地方に見られるものもありますが、音階が限られており、フレンチホルンはこれとは別物で、バルブホルンと言われ4本のバルブにより3オクターブ以上の中音域を演奏できます。但し音域的にはF管とB♭管の2種類があり、これらをシングルホルンと呼びますが、この2つを自由に交替できるダブルホルンが一般的で音域も4オクターブ近い演奏が可能です。

### ☆ホルンが活躍する名曲

ホルンはクラシックや吹奏楽で大活躍しますが、ジャズやポップスの分野ではサクソフォンの輝きや艶のある音に席を譲っています。クラシック音楽ではヘンデルの水上の音楽で華やかに演奏され、モーツァルトは4つのホルン協奏曲を作曲し、リヒャルト・シュトラウスは2つのホルン協奏曲を作曲しています。彼の父はホルン奏者でした。また部分的には魔弾の射手序曲の最初の部分、美しく青きドナウのイントロの部分、など平和で静かなムードの表現やブラームスの交響曲第1番の第4楽章の後半の部分で闇を破って平和の訪れを告げるホルンの響きは大変感動的です。

### ☆世界のメーカー

トップメーカーはドイツのアレキサンダー社で何と234年の社歴を誇ります。モーツァルトが活躍していた頃から、世界のアーティストに絶大な信頼をえています。作曲家でウィーンフィルの指揮者でもあったリヒャルト・シュトラウスは特に愛顧していたようです。ただし価格が高額ですべて100万円以上なのがネックになっています。

次にドイツのメーカーとしてハンスホイヤー社が有名ですが、一般のユーザーを対称にしており価格がアレキサンダーの約半額という中級品に徹しています。国内ではヤマハがアレキサンダー社と日本の総代理店として、また自社でも高品質のホルンを製造販売しています。ヤマハ製の高級品はアレキサンダーの半額で50万円台ですが、F管、B♭管のシングルバルブは20万円台となっています。ホルンは他の金管楽器よりも手間がかかるので、価格も高くなっているようです。

（原案 全シ連 岡村 監修 ヤマハOB）

### "シングル"には・・・



### "ダブル"とは・・・



B♭シングルとFシングルの2つの管が  
**1つになった楽器!**